



Bastille Day：授業アイデア (簡単版)

バリ祭（フランス革命記念日）をテーマにした英語の授業アイデア 4本

Class _____ No. _____ Name _____

1. 「バリ祭」は何語？呼び名くらべ

中学・15分

- 🎯 同じ日が国によって違う名前と呼ばれることに気づき、英語・フランス語のあいさつを言えるようにする。
- 1. 「パリ祭」「Bastille Day」「le 14 Juillet」「la Fête nationale」のカードを見せ、どこで使う名前か予想させる。
- 2. name の節を読んで答え合わせをする。
- 3. Happy Bastille Day! と Bon 14 Juillet! をペアで言い合う。
- 4. 日本の行事で外国と呼び名が違う例（クリスマスイブの過ごし方など）を探す。

2. 1789年か1790年か？議員になって決めよう

高校・35分

- 🎯 1880年の議会の立場に立ち、理由を挙げて英語で主張する。
- 1. origin と history の節で、1789年と1790年の出来事をまとめる。
- 2. クラスを「1789年派」「1790年派」「年を書かない派」に分ける。
- 3. 各派が I think we should ... because ... で30秒ずつ主張する。
- 4. 実際の法律が年を書かなかったことを明かし、その理由を advanced で確かめる。

3. 7人の囚人ミステリー

中学・20分

- 🎯 数字を使った英語の読み取りと、予想を確かめる活動を楽しむ。
- 1. How many prisoners were in the Bastille? と聞き、数を予想して黒板に書かせる。
- 2. 英文の第2段落を読み、答えが7人だったことを確かめる。
- 3. 人々の本当の目的（gunpowder）を英語で答える。
- 4. 「象徴」と「事実」の違いを日本語で短く話し合う。

4. 7月4日と7月14日の比較プレゼン

大学・45分

- 🎯 アメリカ独立記念日とフランス革命記念日を比べ、国家の記憶のつくられ方について英語で発表する。
- 1. 両方のページの myth の節を読み、「よく知られた話」と「事実」の違いを表にする。
- 2. 日付の決まり方（文書の日付／年を書かない法律）を比べる。
- 3. ラファイエットとバスティーユの鍵の話を手がかりに、2つの革命のつながりを調べる。
- 4. グループで5分の英語プレゼンを行う。



1. 「パリ祭」は何語？呼び名くらべ

授業手順書（詳細版）／対象：中学／15分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

同じ7月14日が、国によってちがう名前と呼ばれることに気づく。
Happy Bastille Day! と Bon 14 Juillet! を言う。

準備

- 呼び名カード4枚（パリ祭 / Bastille Day / le 14 Juillet / la Fête nationale）を拡大したもの
- 使われる場所カード（日本 / イギリス・アメリカ / フランスのふだんの呼び名 / フランスの正式名）
- 記事の「パリ祭の意味」の節を短くまとめたプリント
- このサイトの英語ページのあいさつ表現と音声

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	3	4枚の呼び名カードを黒板に貼り、「これは全部同じ日。どこで使われている名前？」と問う。場所カードを配り、班でカードの組み合わせを予想させる。	4つの呼び名がどこで使われているか、班で予想する。	“Look at these four names. They are all for the same day, July 14.” “Where do people use each name? Guess with your group.” “Is Pari-sai a French word?”
展開1	4	プリントを読ませて答え合わせをする。パリ祭は1933年に日本で公開されたフランス映画の邦題から生まれたこと、Bastille Day はイギリスやアメリカの呼び名でフランス人はまず使わないこと、フランスではふだん le 14 Juillet と日付で呼ぶことを確認する。	プリントを読み、予想と答えを比べる。	“Let's check. Pari-sai comes from a French movie in 1933.” “Bastille Day is the English name. French people don't usually say it.” “In France, people say le 14 Juillet. It means July 14.”
展開2	4	英語ページの音声であいさつを聞かせ、Happy Bastille Day! と Bon 14 Juillet! をまねて言わせる。ペアで、相手が英語圏の人なら英語、フランス人ならフランス語、と役を決めてあいさつし合う。	あいさつを聞いてまね、ペアで役を決めて言い合う。	“Listen and repeat. Happy Bastille Day!” “Bon 14 Juillet! Quatorze means fourteen.” “Your partner is from France. What do you say?”
まとめ	4	アメリカ人も独立記念日を the Fourth of July と日付で呼ぶことを紹介し、フランスとの共通点に気づかせる。最後に、日本の行事で、外国と呼び方や過ごし方がちがう例（クリスマスイブの過ごし方など）を班で1つ探して発表させる。	日付で呼ぶ共通点に気づく。日本と外国で呼び方や過ごし方がちがう行事の例を探す。	“Americans say the Fourth of July. The French say the Fourteenth of July.” “Can you find another example? A Japanese event that is different abroad.” “Christmas Eve in Japan is very different. Why?”

板書例

7月14日の呼び名

パリ祭 ... 日本（1933年の映画の邦題から）

Bastille Day ... イギリス・アメリカ

le 14 Juillet ... フランス（ふだん）＝July 14

la Fête nationale ... フランス（正式）＝国民の祝日

Happy Bastille Day!

Bon 14 Juillet!

the Fourth of July（アメリカ）⇔ le 14 Juillet（フランス）

評価のポイント

- 4つの呼び名がどこで使われるかを説明できたか。
- 英語とフランス語のあいさつを、相手に合わせて使い分けられたか。

つまづきへの手だて

- フランス語の発音にとまどう生徒には、カタカナでル・キャトルズ・ジュイエと添えたカードを渡す。
- 例が思いつかない班には、クリスマスやバレンタインデーのページを見せる。

発展

- 名づけた側は「パリまつり」と読むつもりだったが、今は「パリさい」が一般的になったことを紹介する。
- フランス語の数字 quatorze（14）のように、ほかの国の数字の言い方を1つ調べさせる。
- 基本セット p.5 の暗号（VIVE LA FRANCE）を家庭学習にする。

使う教材

- このサイトの記事（パリ祭の意味）
- このサイトの英語ページのあいさつ表現と音声
- 基本セット p.5（暗号）



2. 1789年か1790年か？議員になって決めよう

授業手順書（詳細版）／対象：高校／35分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

1880年の議員の立場に立ち、I think we should ... because ... の形で理由を挙げて英語で主張できる。

準備

- 記事の「由来」と「歴史」の節の要約プリント
- このサイトの英語ページ本文（One Day, Two Stories）と音声
- まとめ表（年・何が起きたか・血が流れたか・誰が参加したか）
- 発展セット（advanced の英文 Why France Never Chose a Year）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	5	「1880年、あなたはフランスの議員。7月14日を国の祝日にする。でも、何年の7月14日？」と問いかける。英語ページ本文の第1～3段落の音声を聞かせ、7月14日に2つの出来事があったことに気づかせる。	音声を聞き、1789年と1790年の2つの7月14日があることをつかむ。	"It's 1880. You are a member of the French parliament." "July 14 will be a national holiday. But which July 14?" "Listen. What happened in 1789? What happened in 1790?"
展開1	8	要約プリントを読ませ、まとめ表を完成させる。1789年はバステュー襲撃（攻めた側の死者約100人）、1790年はシャン・ド・マルスでの連盟祭（国王も誓いを立てた平和な式典）であることを確認する。	プリントを読み、2つの出来事を表にまとめる。	"Fill in the table. What happened? Was there fighting?" "In 1789, about 100 people died on the attacking side." "In 1790, even the king made a promise. There was no fighting."
展開2	6	クラスを「1789年派」「1790年派」「年を書かない派」の3つに分ける。各派で、I think we should ... because ... を使った30秒の主張を考えさせる。理由を2つ入れるよう指示する。	派ごとに、主張と理由2つを英語で準備する。	"Three groups. 1789, 1790, and no year." "Prepare a 30-second speech. Use I think we should ... because ..." "Give two reasons."
展開3	8	各派の代表が30秒ずつ主張する。2巡目は、ほかの派への反論を1つずつ言わせる。最後にクラス全員で投票する。	派ごとに主張と反論をし、投票する。	"1789 group, you have 30 seconds. Go!" "Now, answer one point from another group." "Time to vote. Raise your hand."
まとめ	8	実際の1880年の法律はたった1文で、年が書かれていなかったことを明かす。advanced の第2段落を読ませ、なぜ年を書かなかったのか（共和派も穏健派も、それぞれの7月14日を見つけられた）を確認する。英語1文で理由を書かせる。	advanced を読んで年を書かなかった理由を確かめ、英語1文で書く。	"Here is the answer. The law did not say the year!" "Read paragraph 2. Why did they leave out the year?" "Write one sentence. They left out the year because ..."

板書例

Which July 14?

1789.7.14 バステュー襲撃（攻めた側の死者 約100人）

1790.7.14 連盟祭（国王も誓う・血が流れない）

1880 7月14日を国民の祝日に（法律は1文・年は書いていない）

I think we should choose ... because ...

They left out the year because each group could find its own July 14.

評価のポイント

- 2つの出来事のちがいを、表を使って正しく整理できたか。
- 主張に理由が2つ入っていたか。
- 年を書かなかった理由を、advanced の内容にもとづいて書けたか。

つまづきへの手だて

- 主張が作れない生徒には、表の「血が流れたか」の欄を理由に使えばよいと伝える。
- advanced が難しい生徒には、第2段落の2文目と5文目だけに線を引いて読ませる。

発展

- 上院で法律を説明した歴史家アンリ・マルタンが、1790年の日を「フランスの統一を神聖なものにした日」とたたえたことを紹介する。
- アメリカの7月4日が「宣言の日付」で決まったことと比べ、祝日の日付の決め方のちがいを話し合わせる。
- 発展セットの quiz を課題にする。

使う教材

- このサイトの記事（由来・歴史）
- このサイトの英語ページ本文と音声
- 発展セット（advanced の英文・quiz）



3. 7人の囚人ミステリー

授業手順書（詳細版）／対象：中学／20分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

英文から数字の情報を読み取り、予想を確かめられる。人々の本当の目的が火薬だったことを英語で答えられる。

準備

- このサイトの英語ページ本文（One Day, Two Stories）の第1・第2段落の印刷と音声
- バスティーユの絵（石の要塞）
- 数字カード（7 / 250 / 30,000）
- 基本セット p.2（4択・TF）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
導入	4	バスティーユの絵を見せ、「王の力の象徴とされた牢獄」と紹介する。How many prisoners were in the Bastille? と聞き、生徒に数を予想させて黒板に書く。100人、1,000人などの予想が出るのを待つ。	バスティーユにいた囚人の数を予想する。	"This is the Bastille. It was an old fortress and prison in Paris." "How many prisoners were in the Bastille in 1789?" "100? 1,000? Write your guess."
展開1	6	第2段落を音声で聞かせ、読ませる。only 7 prisoners の部分を見つけさせ、答えを発表する。予想とのちがいに驚かせたあと、「では、人々は何のためにバスティーユに行ったのか」と次の問いを出す。	第2段落を読み、囚人の数を見つけ、予想と比べる。	"Listen and read paragraph 2. Find the number." "Only 7 prisoners! Were you surprised?" "So why did the people go there?"
展開2	5	第1段落を読ませ、数字カード（30,000 と 250）が何の数かをペアで探させる。人々は約3万丁の銃を持っていたが火薬がなく、バスティーユには250樽の火薬があったことを確認する。Why did they go to the Bastille? に To get gunpowder. と英語で答えさせる。	第1段落を読み、数字の意味を探る。人々の目的を英語で答える。	"Read paragraph 1. What is 30,000? What is 250?" "They had guns, but they had no gunpowder." "Why did they go to the Bastille?" "Yes. To get gunpowder."
まとめ	5	「囚人は7人だけだったのに、なぜバスティーユは革命のシンボルになったのか」を日本語で短く話し合わせる。象徴（みんなが思っていたイメージ）と事実（中にあったもの）のちがいを板書で整理する。	象徴と事実のちがいについて、日本語で話し合う。	"Only 7 prisoners. But it became a big symbol. Why?" "A symbol is what people believe it means." "A fact is what was really there."

板書例

How many prisoners were in the Bastille?

予想：____ 人 → 答え：only 7

30,000 ... guns（銃）

250 ... barrels of gunpowder（火薬の樽）

Why did they go to the Bastille?

— To get gunpowder.

象徴：王の力のしるし

事実：囚人7人・火薬250樽

評価のポイント

- 英文から数字の意味を正しく読み取れたか。
- To get gunpowder. と目的を英語で答えられたか。
- 象徴と事実のちがいについて、自分の考えを言えたか。

つまずきへの手だて

- 数字の読み方があやしい生徒には、thirty thousand、two hundred fifty を板書して一緒に読む。
- 英文で数字が見つけにくい生徒には、数字の部分に先に丸をつけたプリントを渡す。

発展

- 7人のうち4人が偽造の罪だったことを紹介する。
- バスティーユの石がパリのコンコルド橋に使われていることを紹介し、英語ページの discussion の問い（Why can a symbol be more powerful than the facts?）に答えさせる。
- 基本セット p.2 の TF を家庭学習にする。

使う教材

- このサイトの英語ページ本文（第1・第2段落）と音声
- 基本セット p.2（4択・TF）



4.7月4日と7月14日の比較プレゼン

授業手順書（詳細版）／対象：大学／45分

Class _____ No. _____ Name _____

ねらい

アメリカ独立記念日とフランス革命記念日を比べ、国家の記憶がどう作られるかについて、グループで5分の英語プレゼンができる。

準備

- このサイトのバリ祭のページとアメリカ独立記念日のページの「よくある誤解とホント」の節
- 比較表（よく知られた話・事実・根拠の3列）
- 発展セット（advanced の英文 Why France Never Chose a Year）
- プレゼンの構成メモ（導入・比較点2つ・つながり・結論）

段階	分	先生	生徒	Teacher Talk
比較表	10	2つのページの myth の節を班で分担して読ませ、比較表にまとめさせる。フランスは「囚人がぎっしりいた」「ルイ16世の日記の『何もしない』」など、アメリカは「7月4日に署名した」「7月4日に自由の鐘が鳴った」などを例にする。	2つのページの誤解とホントを読み、表にまとめる。	“Read the myth sections of both pages.” “Write the famous story, the fact, and the proof.” “Which myth surprised you the most?”
日付の比較	8	アメリカの7月4日は、投票（7月2日）でも署名（8月2日）でもなく、宣言が採択され印刷物に入った日付で決まったことを確認する。フランスは法律に年が書かれていないことを、advanced の第2段落で確かめる。2つの国の日付の決め方のちがいを英語で1文にまとめさせる。	2つの国の日付の決め方を比べ、1文にまとめる。	“How did America choose July 4?” “How about France? Read paragraph 2 of the advanced text.” “Write one sentence about the difference.”
つながり	7	1790年、ラファイエットがバスティーユの鍵の1つをジョージ・ワシントンに贈り、今もマウントバーノンに飾られていることを紹介する。ラファイエットがアメリカ独立戦争で戦った人物であることから、2つの革命のつながりを班で調べさせる。	バスティーユの鍵の話から、2つの革命のつながりを調べる。	“In 1790, Lafayette sent a key of the Bastille to George Washington.” “It is still at Mount Vernon today.” “Why did he send it? What connects the two revolutions?”
プレゼン	20	8分でプレゼンの構成を作らせ、2班ずつ組んで5分ずつ発表し合う。聞き手の班は質問を1つする。残りの時間で、全体に向けて最も鋭かった比較を紹介させる。	構成メモを作り、5分の英語プレゼンを行う。質疑応答をする。	“You have eight minutes to prepare.” “Each group has five minutes. Then the other group asks one question.” “What was the best point you heard today?”

板書例

July 4 (USA)

投票 7/2・採択 7/4・署名 8/2 → 印刷物の日付で記憶
誤解：7/4に署名・7/4に鐘

July 14 (France)

1789 襲撃 / 1790 連盟祭

1880 法律に年を書かない

誤解：囚人がぎっしり（実は7人）・日記の Rien

つながり：Lafayette → Bastille key → Washington (1790)

評価のポイント

- 比較表で、よく知られた話と事実を根拠つきで区別できたか。
- プレゼンが2つの国を同じ観点で比べられているか。
- 質疑応答で、根拠を挙げて答えられたか。

つまづきへの手だて

- 比較の観点が決まらない班には、「日付の決め方」「よく知られた話」「祝い方」の3つから選ばせる。
- 英語での発表に不安がある学生には、構成メモを見ながら話してよいことにする。

発展

- advanced の strategic ambiguity という考えが、ほかの国の祝日や国のシンボルにもあてはまるかを調べさせる。
- フランスがアメリカ独立戦争を助けたことを国別くらべて確かめ、2つの国の関係を英語でまとめさせる。
- 発展セットの debate を次の授業で行う。

使う教材

- このサイトのバリ祭のページとアメリカ独立記念日のページ（よくある誤解とホント）
- 発展セット（advanced の英文・debate）